



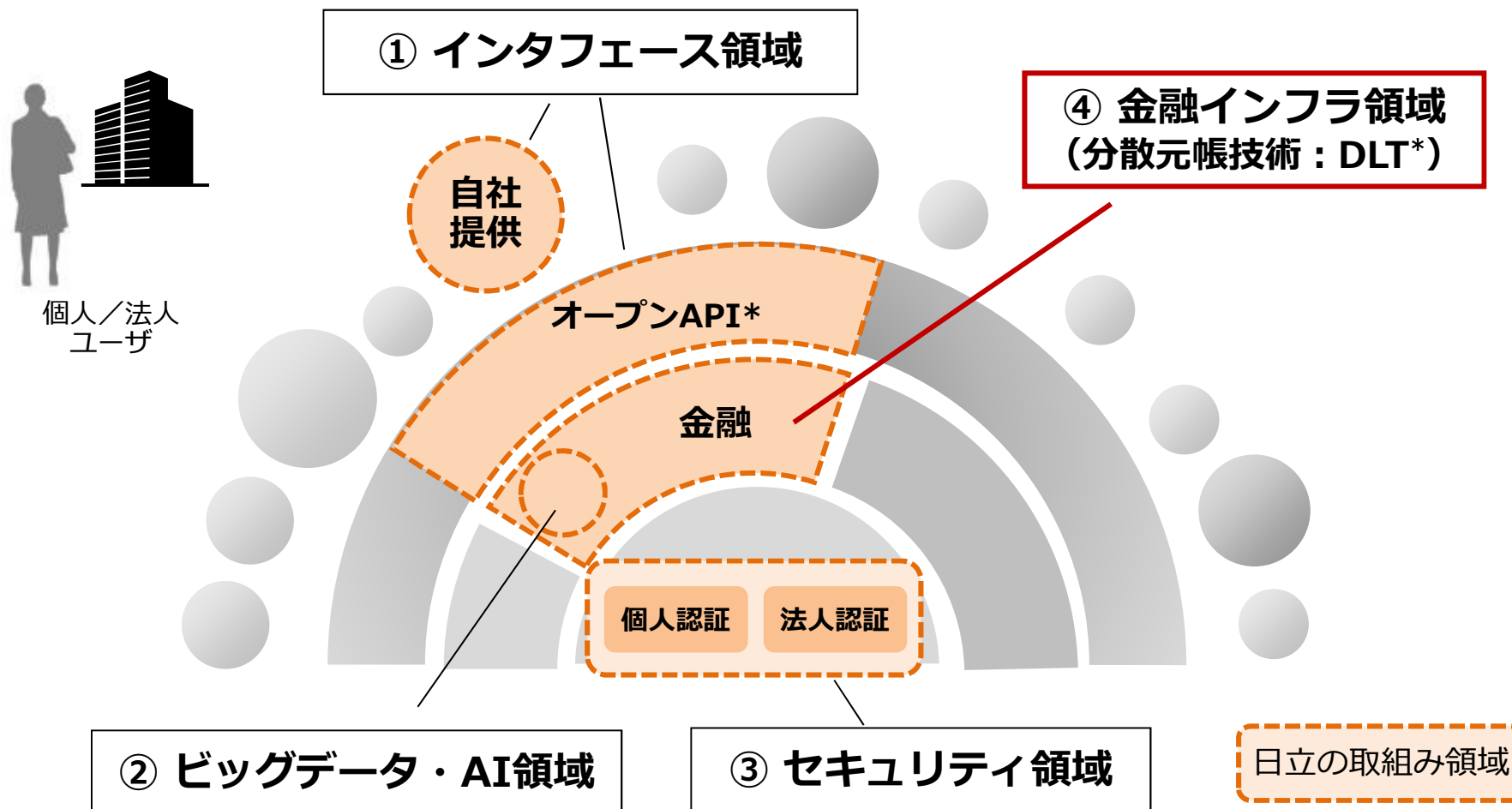
未来投資会議 構造改革徹底推進会合 資料

顧客協創によるオープン・イノベーションへの取り組み

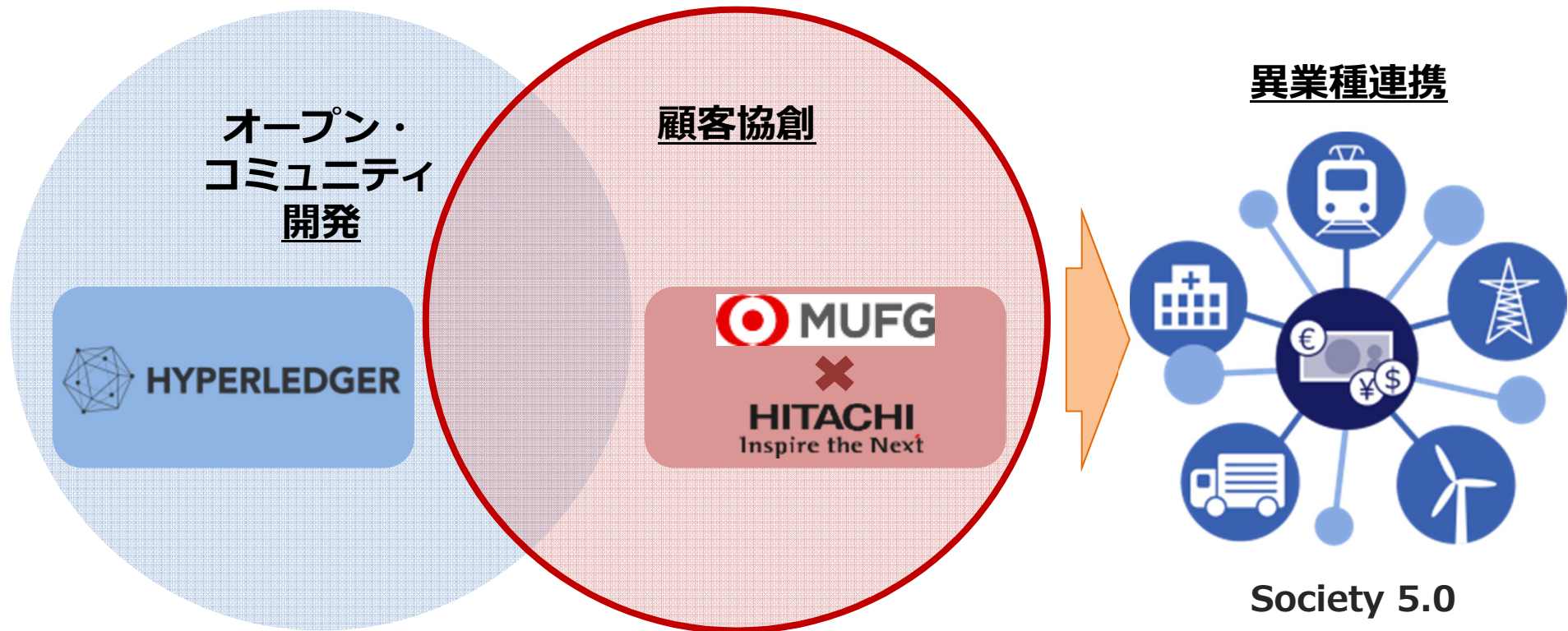
2016年12月15日

株式会社 日立製作所
金融イノベーション推進センター

- 未来の金融システムの実現に向け、当社では以下の4領域での新たなソリューション提供に重点的に対応し、エンドユーザ指向の新機能や新サービスの提供を目指しています。

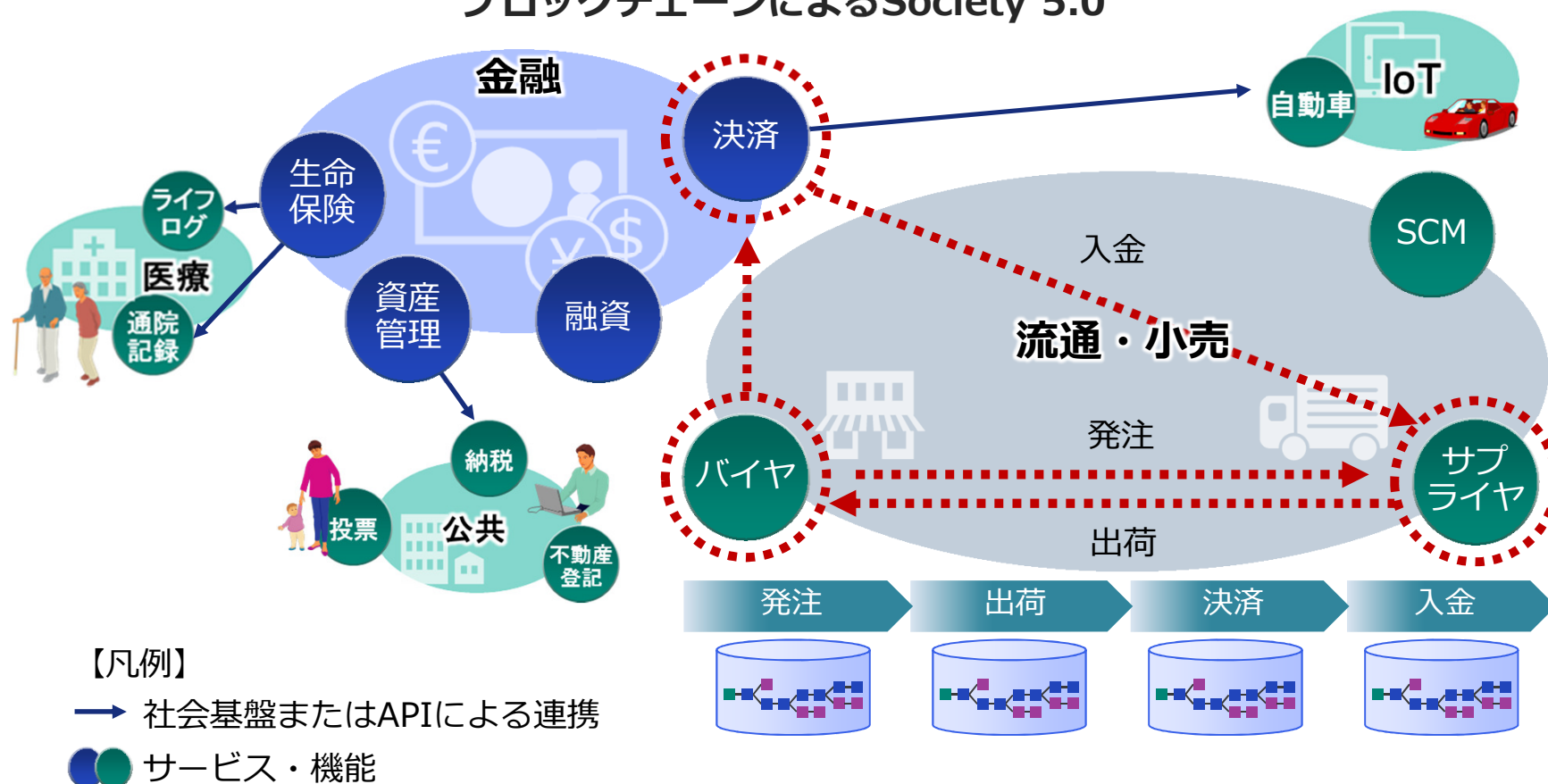


当社ではDLTに関するオープン・イノベーションを、OSS（オープン・ソース・ソフトウェア）提供に向けたオープン・コミュニティによる基盤開発と、顧客とのコラボレーションを通じた協創の2面からの対応を進めています。更に、将来に向けては、DLT適用拡大を通じた異業種連携による更なる利便性向上を通じたSociety 5.0の実現を目指しています。



他産業のスマート化の波は、異なる業界を繋ぎ、社会課題を解決するビジネス・モデル変革を可能にすると考えられます。IoTやスマート・コントラクト等から新しい金流が生まれ、ブロックチェーンを介して、金融業界に新たなビジネス機会をもたらすと期待されています。

ブロックチェーンによるSociety 5.0



8/22付 ニュース・リリース：日立と三菱東京UFJ銀行がシンガポールにおいて小切手の電子化を対象としたブロックチェーン技術活用の実証実験を開始。

今回の実証実験について

- アジア地域における三菱東京UFJ銀行と日立の「協創」の取り組みの一つ。
- 小切手の電子化を対象としたブロックチェーン技術活用の実証実験を実施。
 - ブロックチェーン技術を用いて電子小切手の振り出しや譲渡、取り立てを行うシステムを共同で開発
 - 三菱東京UFJ銀行が当該小切手の発行・決済を実施
 - 日立グループの複数拠点で小切手の受け取りや取り立てを実施（**ITベンダとしてだけでなく、エンド・ユーザとしても参画**）
- 本実証実験を通じて、技術・セキュリティ・業務・法制度などにおける課題を抽出し、小切手の電子化をはじめとするFinTechサービスの実現を目指します。

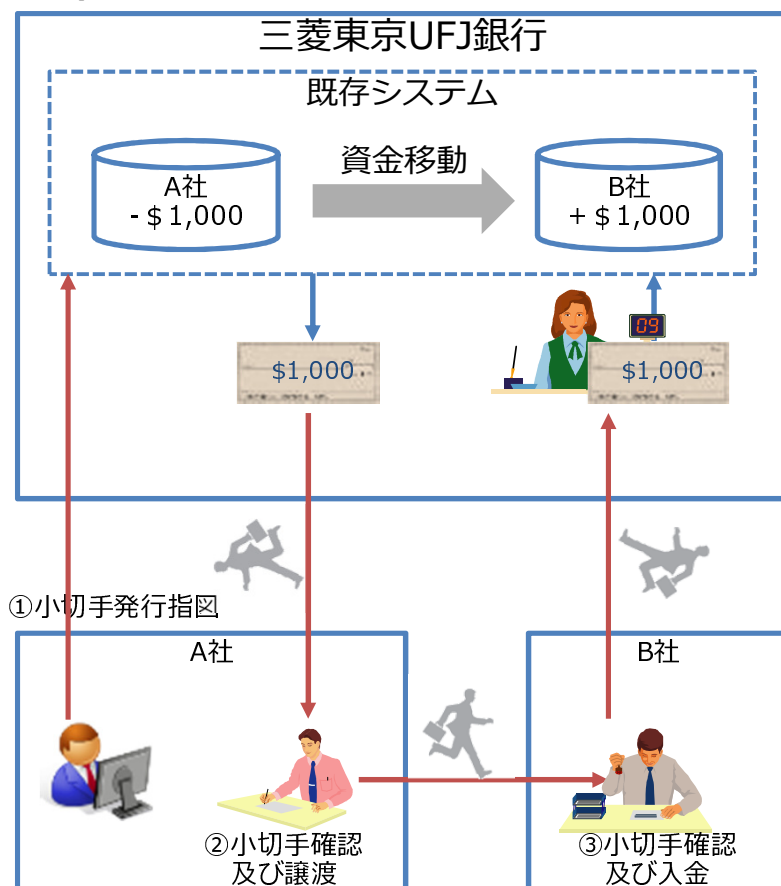
今後の展開について

- 今回の実証実験をはじめとして、今後もブロックチェーン技術の実用化に向けた取り組みを重ね、金融サービスのグローバルな発展への貢献を図る。
 - 実証実験参加者の増加を進めるとともに、電子小切手におけるブロックチェーン技術の活用を実現することで、金融機関における小切手の仲介業務の自動化、取引記録の改ざん防止、小切手決済の迅速化を推進

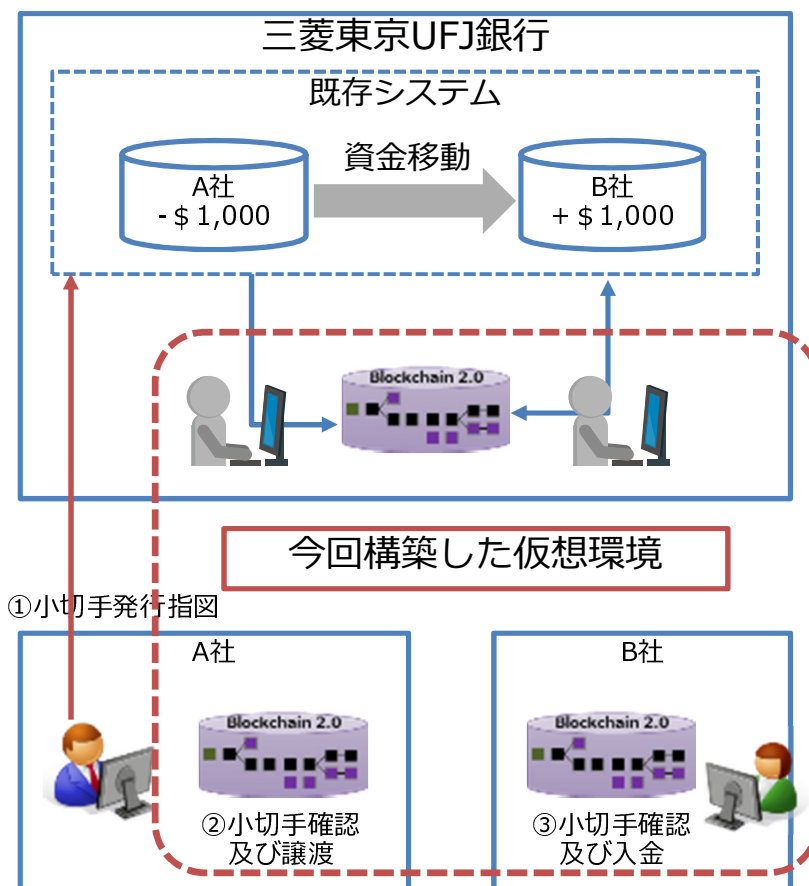
今回の実証実験の概要

- 小切手業務における偽造や紛失の恐れを解消し、小切手の決済期間の短縮を目指し、今回の実証実験では、小切手を電子的に発行し、小切手の所有者や状態をブロックチェーンに記録しています。
- ユーザからの小切手発行依頼に対し、ブロックチェーン上に三菱東京UFJ銀行が電子小切手を振出します。ブロックチェーン上に振出された電子小切手はユーザに即時に通知され、ユーザが確認、入金依頼、分割譲渡等を行います。

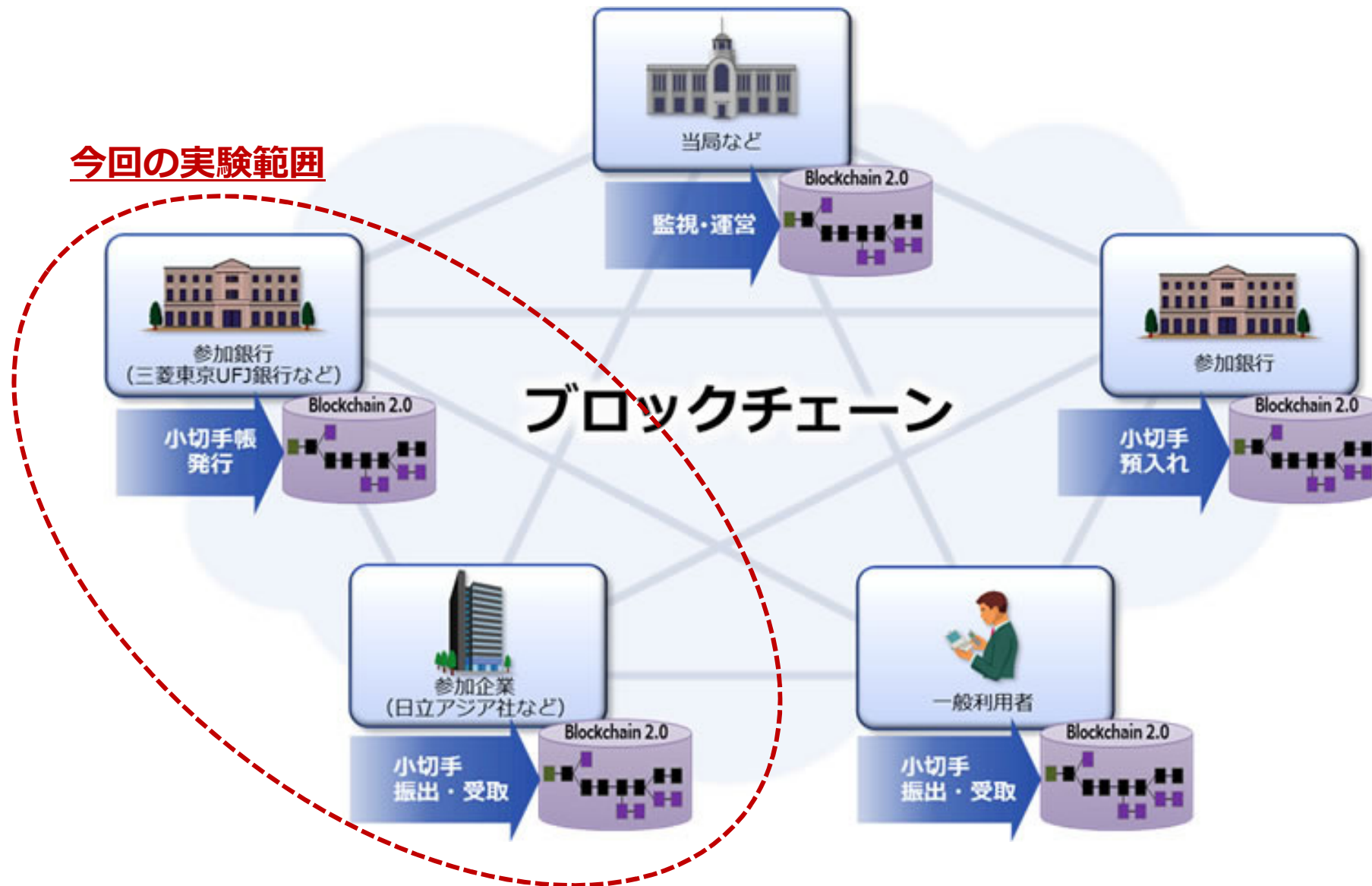
現状のフロー



実証実験の基本フロー



(注) 今次実証実験におけるA社、B社は日立グループ企業です。



今後、基盤技術としての標準化、更には将来の適用領域の拡大を見据えた業務面での標準化やルール整備が求められます。

①技術面

- 複数業種における導入拡大に向けたブロックチェーン基盤標準化
- 社会インフラとしてのより広範な活用に向けた記述モデルの拡張、ブロックチェーン連携方式の検討

②業務／制度面

- ブロックチェーンの特長を活かした業務手順／記述フォーマットの標準化／法整備
- 上記と併せた業務プロセスの最適化
- 社会インフラとしてのより広範な活用に向けた、業種間／国際ルールの整備

END

顧客協創によるオープン・イノベーションへの取り組み

2016/12/15

株式会社 日立製作所
金融イノベーション推進センター

HITACHI
Inspire the Next